

## 「第1回逢瀬川・谷田川流域水害対策協議会」 議事概要

日 時：令和7年10月15日 10時30分～11時10分

場 所：郡山市上下水道局 5階 大会議室

出席者：別紙「出席者名簿」のとおり

### 議事次第：

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事

- (1) 流域水害対策計画について（計画期間、計画対象降雨）・・・ [資料1]
- (2) 浸水被害対策について（イメージ）・・・ [資料2]
- (3) 今後のスケジュールについて・・・ [資料3]

- 4 閉会

### 議事概要：

#### ◆ 議事(1)流域水害対策計画について

- ・事務局より資料1を説明。

<阿武隈土地改良調査管理事務所 井上所長>

- ・ 計画対象降雨について、①既存の河川整備計画を考慮した規模②気候変動の影響を考慮した規模（①×1.1倍）③令和元年東日本台風によるシミュレーションを比較し、浸水面積及び氾濫量の最も大きい②で設定するとしているが、雨量は③が最も多くなっている。雨量の大小関係と浸水面積及び氾濫量の大小関係が逆転している理由について教えてほしい。

<事務局>

- ・ 雨の降り方の条件には、総雨量、時間分布、地域分布といったものがある。逢瀬川・谷田川流域においては、総雨量は③が最も大きく、次いで②という状況だが、時間分布等を考慮すると浸水面積及び氾濫量では大小関係が逆転するという結果となっている。

<朝岡座長>

- ・ 逢瀬川・谷田川の整備計画である（一級河川阿武隈川水系）郡山圏域河川整備計画は残り11年であり、流域水害対策計画の計画期間は30年である。流域水害対策計画に現在の河川整備計画に位置付けられていないような新たな対策を位置付けた場合には、（一級河川阿武隈川水系）郡山圏域河川整備計画も変更するとの理解でよいか。

（次ページへ続く）

<事務局>

- ・ 現在、逢瀬川の河川改修を進めているところであり、改修事業の残事業と流域水害対策計画の計画期間を比較すると、改修事業の方が早く完了するといえる。今回の計画は、気候変動を考慮した規模の外力で検討を進めるため、おそらく新たな対策メニューが必要になるであろうと受け止めている。ただし、市街地における河川の再改修は難しい状況であるため、どのような手法で治水安全度を向上できるか次回の協議会に向けて検討していく。
- ・ 今後の検討のなかで、対策メニューに新たな治水対策が出てくれば、整備計画へ反映しなければならない。また、郡山圏域河川整備計画であるため、逢瀬川・谷田川以外の河川での事業進捗も考慮する必要がある。そうした要素を加味して、河川整備計画の変更の必要性や変更時期について県の河川部局で検討していく。

◆ 議事(2) 浸水被害対策について (イメージ)

- ・ 事務局より資料2を説明。

<朝岡座長>

- ・ 流域水害対策の効果を示したイメージ図で、対策後に阿武隈川の河川整備とあるが、現在見直している阿武隈川河川整備計画の変更後の内容を想定しているという理解でよいか。

<事務局>

- ・ そのとおりである。昨年の発足会でも阿武隈川流域として、阿武隈川での対策が非常に重要であると意見をいただいていることから、このような資料のまとめ方にしている。

◆ 議事(3) 今後のスケジュールについて

- ・ 事務局より資料3を説明。

<朝岡座長>

- ・ 計画策定後に各市村で新たな対策が出てくると想定されるが、そうした対策を受け、流域水害対策計画も随時見直すこととなるのか確認したい。

<事務局>

- ・ 流域水害対策計画について、策定後の見直し等も考えている。

【連絡事項】

<事務局>

- ・ 本日の議事概要については、事務局でとりまとめた後、各委員の皆様にご確認いただいた上で、福島県土木部土木企画課のホームページへ掲載する。
- ・ 次回の協議会の開催日については、後日、事務局から改めて案内する。